利用実績報告書

(令和7年度)

企業名等	株式会社藤田鉄工所		利用実績	16	時間
課題名	SUS の用途の違いによる酸化状態の比較				
利用ビーム ライン	BL(08W-XAFS) 測定手法	X 線吸収微細構造			
測定体制	 (株)藤田鉄工所<分析依頼、試料準備> 計負契約 (株)光エンジニアリングサービス: <測定、データ解析> PhoSIC 渡辺先生 <測定・データ解析へのご指導・ご助言>				
利用目的	当社では、錆びた SUS 製品の再利用を検討しており、初期段階として SUS 錆びの微細組織観察、成分分析等を行っている。本測定では、錆び状態の違いによる SUS 表面の酸化状態分析を目的として、BL08W-XAFS を用いて鉄とクロムの酸化状態分析を実施した。				
測定条件 ・内容	錆無し、弱い錆、強い錆の SUS 板を用意し、XAFS により各試料の鉄とクロムの K 吸収端を測定した。比較標準試料として鉄板(純度 99.99%)、クロム板(純度 99.9%)を用意し、測定方法は蛍光法、転換電子収量法の 2 つの方法を用いた。ビームサイズは $150\mu\mathrm{m}\times50\mu\mathrm{m}$ である。また、XAFS 解析ソフトウエア(Athena)を用いて、錆の中の鉄・酸化鉄、クロム・酸化クロムの割合を分析した。				
結果概要	図 1 に転換電子収量法を用いて測定した SUS 各試料・標準試料の鉄の XAFS スペクトル、表 1 に XAFS 解析ソフトウエアを用いて算出した SUS 各試料の鉄と酸化鉄、クロムと酸化クロムの比率を示す。弱い錆と強い錆の試料を比較して、強い錆試料の方が 7110eV 近傍の吸収が小さく、7130eV 近傍の吸収が大きくなる結果となった。この結果は錆が強くなることにより α Fe ₂ O ₃ が増加することを示している。更に、参考試料を用いて XAFS スペクトルを解析することで SUS 各試料の鉄・酸化鉄、クロム・酸化クロムの比率を数値化できた。 表 1 SUS 各試料の鉄・酸化鉄、クロム・酸化クロムの比率を数値化できた。 表 1 SUS 各試料の鉄・酸化鉄、クロム・酸化クロムの比率を数値化できた。 「Fe 強い錆」を(%) 96.6 49.9 12.1 Fe (%) 96.6 49.9 12.1 Fe				
	INC I GO	Fe 合計	+ 100.0	100.0	100.0
	Ref. Fe 7100 7120 7140 7160 7180	Cr (%)	74.3	47.3	9.7
	7100 7120 7140 7160 7180 Energy (eV)	Cr ₂ O ₃ (%)	25.7	52.7	90.3
	図1 SUS 各試料・標準試料の鉄の XAFS スペクトル Cr 合計 100.0 100.0 100.0 100.0				